

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1Fユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100642		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	あったかいごグループホーム東安庭 (1Fユニット)		
所在地	〒020-0824 盛岡市東安庭1丁目23番70号		
自己評価作成日	令和5年9月22日	評価結果市町村受理日	令和5年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は「共に和み 共に生きる」の理念のもと、利用者様に寄り添い、支え合いながら一緒に生活することを重点において日々支援しております。日常的に利用者様、ご家族とコミュニケーションを取り意向を伺い、可能な限り希望に近づけられるよう心掛けております。
協力医療機関や訪問看護と連携を取り、重度化や看取りにも対応しております。また、同一敷地内にある同法人のサービス付き高齢者住宅をはじめ近隣にある同法人の施設と、緊急時や行事の際はお互いに協力がとれる体制が出来ております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建ての2ユニットを運営する事業所で、敷地内には駐車場を囲むように同じ法人のデイサービス、サービス付き高齢者住宅、災害時の備蓄保管庫が並ぶ。隣接地に協力医療機関の内科・外科クリニックがあり、訪問看護ステーションとの医療連携の体制も確立しており、看取りを始めとする終末期に積極的に取り組もうとする意欲が強く感じられる事業所である。毎月家族に送付する「ご様子シート」からは、各利用者の心身の様子をしっかりと把握し、思いに寄り添いながら日々の生活の中で笑顔が生まれるようなケアサービスに努めていることが伺われる。現在、ミャンマーからの技能実習生が2名おり、明るく積極的に職員・利用者に良い刺激を与えてくれる。2ユニットの所長を兼務する1階の管理者と2階の管理者はお互いによく話し合い、事業所運営の考え方を共有しながら職員を先導しており、コロナで停滞した行きたい場所への外出支援や地域との交流に力を入れることとしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み 共に生きる」を理念に掲げ、利用者様、ご家族の思いに寄り添いながら笑顔で生活できるよう取り組んでおります。	運営母体の共通理念である「共に和み、共に生きる」をもとに、職員は、理念のキーワードである“共に”を実践するため、利用者が家族と一緒に暮らしているような気持ちになってもらえるよう、自然体で親身に日々の支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが2類から5類に引き下げになった事を機に、少しずつではありますが地域との交流を図っております。	コロナ禍で、地域の皆さんにも参加してもらおう園の夏祭りは3年間中止してきた。来年度は是非開催したいとしている。今年は近隣保育園の園児たちにチャグチャグ馬っこパレードを敷地内で開催してもらった。地域との交流がやや受け身で、園側から積極的に働きかける姿勢が足りないとしている。	事業所が立地する地域には、近くに地域活動センター、保育園、特別支援学校、大型スーパーなどがあり、事業所の有する認知症介護の専門的な知見を活かし、これらの社会資源と連携しながら、地域交流や地域貢献を進めることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報を通して利用者様の生活の様子から認知症の理解を図っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際は、町内会長、民生委員、ご家族、五月園地域包括支援センター、中野交番に参加を依頼し、サービス付き高齢者住宅と合同で行っています。事業所の状況や利用者様の状況、事故報告などを行い、出席者様より運営に関する意見や助言を頂いております。	3月以降は参集いただいて開催している。地域住民の方は、都合で出席できないことが多い。利用者や家族にもメンバーになってもらっているが、適任の方をお願いできるまでに至っていない。園側の運営報告をもとに意見交換を行っている。警察の地元駐在所からは、地域の様々な情報が得られる。欠席者には議事録を送付し、職員には回覧で会議内容を知らせているが、今後は幹部に加え職員にも出席してもらおうこととしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種申請時は担当課に直接出向き、分からない事については相談に応じて頂いております。	市の担当者とは主に電話やメールで連絡をしており、各種申請等の際は担当課に出向き、直接担当者や情報を交換するよう努めている。運営推進会議メンバーの地域包括支援センター職員には事業所の実情をよく理解してもらっており、利用者に関する相談に乗ってもらっている。市から「認知症カフェ」事業の取り組みを勧められており、検討している。	上記項目2のとおり、地域との連携を進めるうえで、「認知症カフェ」への参画はきわめて有効であり、前向きに検討されることを期待します。

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で「身体拘束排除宣言」を掲げ、職員一丸となって身体拘束をしないケアに取り組んでおります。身体拘束適正化に関する指針をもとに定期的に研修を行う事により、身体拘束をしないケアについて再確認をしております。	事業所全員で「身体的拘束適正化検討委員会」を構成している。職員会議の後、年4回、職員会議に続き委員会を開催し、具体的事例を取り上げ身体拘束のないケアについて話し合っている。また、2ヶ月に1回研修(勉強会)を実施している。スピーチロックには、その場で指摘し、お互いに気づき合うようにしている。ミャンマーから来ている技能実習生2名にケアでの言葉遣いを現場で教えているが、スタッフも、そのやり取りを聴きながら自分の言動を振り返るいい機会になっている。玄関は日中はセンサーで出入りを確認し、夜間の施錠は夜勤専門職員が勤務に就く20時30分からになっている。転倒のリスクのある利用者には居室に床センサーを設置しており、事前に家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する資料を回覧する事で学びの機会を設けております。また、不適切なケアを見かけた場合は職員間で注意し合うようにしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が選定されている利用者様がいらっしゃる事もあり、後見人と連絡を取り合い利用者様を支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は、ご家族へ重要事項説明書等の説明を行い、ご納得頂いた上で契約書を取り交わしております。また、改定の際も文書にて説明、同意書を提出して頂いております。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等で来所された際に、意見交換を行うようにしております。また、玄関に意見箱を設置しており、ご意見を頂いた際には運営に反映させるようにしております。	来訪時の家族から要望等を聴取しているが、運営に関する意見はない。意見箱にも投書は見られない。コロナが5類になったことから、現在は、完全予約制で各居室で30分程度の面会とし、家族の面会は月平均2回程度になっている。行事等の写真で構成する「あったかいご通信」を3ヶ月毎に送付するとともに、一人一人の入浴、排泄、食事、健康等、1ヶ月の生活の様子を居室担当職員がまとめ、家族に送付し、連絡、連携を密にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課の際に面談を行い職員の意見、要望、提案などを聞くようにしております。また、職員会議の際にも意見交換を行い業務の改善に活かしております。	職員会議や申し送り時に、職員から意見や要望が出される。管理者は、人事考課制度の一次評価の個人面談の際、意見、要望、悩みなどを確認している。最近では、職員から光熱水費の節約について意見が出され、全員で対応を検討することとしている。法人の福祉事業部では、キャリアアップを目指す職員の要望に応え、休日の外部研修受講の出張扱い、資格取得受験料の負担等の支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や経験年数に応じた期末手当の支給、系列事業所との交流、契約職員の正規職員登用制度など向上心を持って働けるよう環境整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役職に応じた研修会を行っており、役職者以外の職員も内部・外部研修に参加出来る機会を確保するようにしております。また、技能実習生を受け入れており、指導する職員も学ぶ機会を作っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協会に加入し、情報交換を行っております。また、系列事業所と定期的に連絡を取り合う事でお互いにサービスの向上に取り組んでおります。		

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様とお会いし、状態を確認するようにしております。また、ホームでどのように生活していきたいかご意向をお聞きしております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や直接お会いして困っている事やご意向をお聞きし、できる限りご意向に沿った対応が出来るよう心掛けております。また、体調の変化や事故発生時など都度ご家族様へ連絡し状況を報告しております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にご本人、ご家族の意向、身体状況を確認し、必要な支援の方法を考え提供するように努めております。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事に着目し、無理の無い範囲で家事等の役割を担って頂き共に生活しております。また、昼食は職員も一緒に食べる事で暮らしを共にする雰囲気作りを心掛けております。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へ無理のない範囲で定期的な面会を呼び掛けております。また、通院時の同行や運営推進会議への参加もご協力頂いております。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの発生状況に応じて規制内容を変更する事もありますが、現在は予約制、短時間で居室での面会可能としております。	電話でやり取りをする友人を持つ利用者が2階に1人いるが、殆どの利用者は家族以外の友人、知人との繋がりはなくなっている。コロナ以降、自宅周辺や思い出のある馴染みの場所へのドライブは減少している。定期的に来所する訪問看護師や理美容師が新たな馴染みの人になっている。		

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間で会話が難しい時やトラブルになりそうな時は職員が介入し関係を取り持つように対応しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も他施設、病院等、転出先と情報交換等、適宜行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際にご本人様、ご家族様から思いやご意向を確認しております。思いやご意向を伝えられない方は、その方にとって心地よい事、嬉しい事を全職員で考え共有してケアを行っております。	1階、2階とも、意思表示できる人が過半数おり、問いかけを工夫することで自分の方から話してくれる。思いを伝えられない方には、答えを選択できる声かけや表情・ふるまいなどから把握するようにしている。利用者の話の内容や行動の様子は、申し送りノートや生活記録に記録し、職員で共有しながら利用者の思いを理解するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、ケアマネージャー、利用していた施設等から情報の収集、情報交換、共有を行い把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録と生活日誌を活用し一人ひとりの状態を把握できるように努めております。また、カンファレンスを開催し職員間で情報の交換、共有に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催し、職員間で情報の交換、共有を行っております。また、支援の方法について検討しており、概ね6カ月毎に介護計画を見直しております。	利用開始時のプランを3ヶ月経過で正式プランとし、以後、毎月の職員会議の後に、気になる利用者について居室担当者の資料をもとに全員でモニタリングを行い、必要な場合はプランを修正している。原則6ヶ月毎のカンファレンスによりプランの見直し、継続を判断しているが、利用者の状況によっては随時の見直しも行っている。毎月、「ご様子シート」を家族に送付し、意見や意向を確認するようにしている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を個別に記録し、申し送り時等、情報の交換、共有に努めております。また、申し送りノートを活用し、情報共有をしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況を把握する事、ご家族様からご相談頂いた事等を考慮し、その時に出来る最適なサービスを提供出来るよう職員間で連携を図っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや町内会に当事業所を認知してもらえよう広報をお届けしております。有事の際はご協力頂けるよう呼び掛けております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際、ご本人様、ご家族様の同意のもと近隣の協力医療機関に切り替え、隔週で訪問診療して頂いております。急病の際は、職員対応で診察し、ご家族様にご報告しております。	利用開始に本人、家族に説明し、同意のもとで殆どの利用者が近隣の協力医療機関をかかりつけ医にしている。かかりつけ医による隔週訪問診療、皮膚科医師による往診治療をお願いしている。薬局薬剤師に薬を直接届けてもらい、処方薬の使用や管理について説明を得ている。また、訪問看護ステーションの看護師の訪問が毎週あり、利用者の健康管理や職員の相談に乗ってもらっている。日常の健康状態については、「ご様子シート」に記入し、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制をとっており、毎週火曜日に訪問し健康管理、相談、急病時等は随時対応(電話、訪問)して頂いております。また、医師の指示で個別での対応も行っております。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は入院先と情報交換を行い、入院中の生活が安心したものとなるように、退院後は施設での生活がスムーズに送れるように努めております。コロナの発生状況により面会が難しい場合もありますが可能な限り状況確認を細目に行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に看取りを含めた説明を行い、ご家族様にご意向を確認しております。また、状態の変化が見られた際は随時ご家族様に報告を行い、医師、訪問看護を含め対応について確認する機会を設けております。	利用開始時に、家族に対し重度化や終末期に関する事業所の方針、特に希望があれば看取りに対応できることを説明し、意向を確認している。入居後も状況の変化に応じて対応について意向を再確認している。かかりつけ医と訪問看護師の連携がよく図られ、適切な指示や指導のもと、職員も安心して冷静に終末期に対応出来ており、これまで平均1年に1名は看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応方法を施設内に掲示し、職員が把握できるようにしております。避難訓練の際には、AEDの使用法や救命救急についての訓練を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難計画をもとに定期的に利用者様を交え訓練を行っている。非常時の持ち出し袋を玄関に常備しており、非常食等は駐車場の物置に備蓄しております。有事の際は、同一敷地内のサービス付き高齢者住宅の職員と協力する体制をとっており、町内会にも協力を要請しております。	火事、水害、地震等の災害対応マニュアルを整備し、年2回(3月、9月)、火災を中心とした避難訓練を行っている。夜間想定訓練では、職員が利用者の代わりに車椅子に乗り、避難の体験をしたが、昼とは異なる課題を発見できた。災害時には、同一敷地内の他施設職員と協力する体制になっているが、合同の訓練は実施していない。町内会にも協力の声がけを行っているが、訓練の応援をいただくまでには至っていない。非常食や災害用備品は駐車場の別棟に備蓄保管している。	2階にも居室があり、消防署の指導も得ながら、2階からの避難の方法、手順等をこれまで以上に明確にし、職員で共有しておくことが求められます。また、夜間想定訓練で明らかになった課題を整理し、対応を職員で話し合われることが望まれます。加えて、職員連絡網による夜間の非常召集訓練を実施されることも期待されます。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心に配慮した声掛けや、人生の先輩として敬意を持った対応を心掛けております。接遇に関する指導を適宜行っております。	利用者一人一人の尊厳と誇りを守ることを基本に、職員が自分の家族に置き換えながらやって欲しくないことに“想像力”を働かせながら、敬意を持って対応することを心がけている。職員会議で相手の側に立った接遇のあり方を職員同士でやり取りをしながら学んでいる。職員達にとっては、ミャンマーからの技能実習生への接遇指導が自らの気付きに繋がっている。居室から無理にホールに連れ出すことのないよう本人の気持ちを尊重している。入浴、着替え、排泄の際、他の人から見えないう、プライバシーの確保にも留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様にご意向を確認し支援するよう努めております。うまく言葉で表現できない方や理解力に難がある方には選択できるような声掛けを行うよう工夫して対応しております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、排泄、起床・就寝時間、余暇活動等、声掛けはするものの無理強いせず、ご本人様のご意向やペースを配慮した対応を心掛けております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月での訪問理容、爪切り、髭剃り等の整容のお手伝いをさせて頂いております。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・夕は配食サービスを利用し、昼食は利用者様からご希望を聞きメニューに取り入れております。季節にちなんだ献立を考え利用者様に楽しんで頂けるよう努めております。利用者様にははできる範囲でテーブル拭きや食器洗い、食器拭き等を手伝って頂いております。	朝食の主菜・副菜、夕食の主菜は配食サービスを利用し、朝夕のご飯・味噌汁、夕食の副菜、昼食は職員が調理している。惣菜は週2回冷凍で配送されるが、内容によっては職員が適宜1品を加えることもある。1階、2階とも同じ献立で、調理はそれぞれの職員が交代で行っている。昼食の献立は、利用者にも希望を聞きながら作成している。1階、2階とも3卓のテーブルを男女別に3人位ずつ囲み、職員も見守りをしながら一緒に食事を摂っている。敬老会等の行事食では職員が手づくりの惣菜を準備するなど、変化のある食事提供を心がけている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録表にて1日の食事量・水分量が把握できるようにしております。また、定期的に血液検査を行っており体の状態も把握出来るようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食前には口腔体操を行い、誤嚥予防に努めております。また、毎食後に居室で口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄の間隔、パターンを把握しながらトイレ誘導を行い排泄の自立に近づけるよう支援を行っております。パットやオムツの適正使用についてカンファレンスの際に検討しております。	1階は6人が、2階では2人が自分でトイレに立つ。2階に誘導、介助が必要な人が多い。全体で布パンツの人が5人となっている。夜間は、自分でトイレに向かう人以外は、睡眠優先としてトイレ誘導は行わず、パットを取り替えている。ポータブルトイレ使用も1、2階各1人いる。2階でパットなど介護用品の使用頻度が多くなって来ており、経済的負担増、利用者の状態に適したパット等の選択、職員の排泄介助の負担軽減などの観点から介護用品の適正使用について職員間で話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れたり、水分を多く摂取して頂けるよう細目に種類を変え提供しております。また、毎日朝食の際にヨーグルトを提供したり、ラジオ体操・ホール歩行で体を動かすよう働きかけ便秘予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	基本、週2回日中のみ入浴を行っており、体調を考慮した上で、できる範囲でご本人様のご希望に応じ適宜対応しております。重度の方には職員2名で対応しております。入浴の際は歌を歌ったり、会話を楽む事ができるよう心掛けております。	週2回午前中の中の入浴が基本となっている。見守り中心の人が多いが、2階で介助が必要な人が2人おり、うち一人はシャワー浴になっている。歌を唄ったり、いろんな話をしたりしながら、心身ともリラックスして入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後より照明の調節を行ったり、テレビの音量を調節したりして休息や安心して入眠できるよう環境を整えております。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルし、内服薬の理解を図っております。状態の変化に注意し、主治医、訪問看護へ状態報告、相談を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の自信ややりがいにつながるよう役割を持って頂いたり、塗り絵、計算、歌唱、散歩等、利用者様が個人や集団で楽しめるような余暇時間を設け、生活に張りや気分転換を図れるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出はまだ難しい状況ではありませんが、感染予防に配慮しミニドライブや施設周辺の散歩を行っております。	コロナが5類になったが、個人の買物等、利用者の希望に添った外出は実現には至っていない。事業所周辺の散策や春・秋のミニドライブで気分転換を図ってもらっている。家族との外出も自制しているが、家族の希望で一緒に外食を楽しんできた利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の重要さは理解しているものの、トラブル防止のため現金の持ち込みはご遠慮頂いております。希望される方についてはご家族と話し合い金額を決めた上でご本人様がお持ちになられております。外出が難しい状況である事から、使用する機会はあまりありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ年賀状を毎年お送りしております。ご希望があった際は、電話をつないだり、手紙のやり取りができるよう支援しております。携帯電話をお持ちの方もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じさせる装飾物や行事の写真、利用者様の作品を掲示し心地よい場所となるよう工夫しております。エアコン、空気清浄機、加湿器等で調整する事により快適な環境を提供できるよう努めております。	1階、2階とも全体的に同じ間取りで、エアコン、パネルヒーター、空気清浄機、加湿器などが設置され、快適な環境になっている。食堂兼居間には3卓の食卓テーブルと椅子、テレビの前には2人掛けと1人掛けのソファが配置されている。壁面には、技能実習生らが中心になり利用者と一緒に作成したひな祭りの人形など季節を感じられる作品が飾られている。普段は1階、2階でそれぞれゆったりと自由に過ごしているが、夏まつりや敬老会と一緒に楽しんでいる。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたい方や少人数で会話を楽しみたい方など各々が心地よく過ごせるよう事務所にベンチ、ホールにはソファやテーブルを配置しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の慣れ親しんだ環境に近づけられるよう使い慣れた物を持参頂き配置しております。ご入居後はご家族様のお写真やご本人様の作品等を掲示する事で居心地の良い環境になるよう工夫しております。	居室には電動ベット、洗面台、エアコン、クローゼットが備え付けになっている。入居時、使い慣れたものを持参できることを説明しているが、持込品はそれ程多くなく、利用者自身の作品や家族写真程度で、簡素ですっきりした部屋が多い。掃除は職員が行うが、自分でも出来るようほうきと塵取りを置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、所々に手すりが設置しており安全に配慮しております。トイレや居室に目印や表札をつけ認識しやすいよう工夫しております。		